



1.令和 7 年産米の検査結果について

本年は、米不足がささやかれる中でも、当 J A へ出荷いただき、ありがとうございました。

主な品種の検査結果につきましては、登熟不良、白未熟粒等高温障害による品質低下が多く見られました。

1 0 月末現在 3 0 kg 袋検査数

品種	1 等	2 等	3 等・規格外	1 等割合	R 6 年 1 等米比率
コシヒカリ	17.0 俵	286.5 俵	476.0 俵	2.2%	2.9%
あきたこまち	0.0 俵	3.5 俵	44.5 俵	0.0%	2.5%
ひとめぼれ	157.5 俵	113.0 俵	143.5 俵	38.0%	36.4%
にじのきらめき	594.0 俵	294.0 俵	477.5 俵	43.5%	42.8%

2.本年の水稲栽培について

本年も特異的な気象状況となり、水稲栽培には厳しい年となりました。

◎ 梅雨について

6 月 9 日と遅めの梅雨入り、梅雨明けは 7 月 4 日頃になり、短い梅雨となりました。

◎ 7 月以降の状況について

出穂後は、猛暑となり、登熟不良、白未熟粒等高温障害による品質低下、日々高温状態の為、肥料成分が早期に溶出し、後半の肥料不足、微量ながらも稲の生育に欠かせない成分（鉄・苦土・マンガン・ホウ素）不足によるごま葉枯れ病の発生や、収量の低下が見られました。

◎虫害について

籾を吸汁する従来からのカメムシの他、茎を吸汁するイネカメムシの被害が見受けられました。イネカメムシの被害は、吸汁された茎の穂に養分が行かず、後に白穂が直立状態になり、収量に影響を及ぼします。ウンカ類の突出的な被害の報告は、特にありませんでした。



3.来期の対策について

◎秋起こし

稲の刈り跡から再生する穂（ヒコバエ）は、ウンカ、カメムシの餌場や棲家になっています。また、コンバインから排出されるわらや稲株は、そのままにしておくと分解が進まず、翌年の代掻き作業等の邪魔になるとともに、田植え後、メタンガスや硫化水素の発生原因になる為、稲刈り後は早めの耕起を行って下さい。

◎土づくり

夏場の集中豪雨や猛暑は、毎年起き得るものと考えられ、米づくりにおいては、気候変動に耐えられる強い稲づくりが求められています。

強い稲づくりには、「有機物の施用（籾・稲わらの還元・堆肥の施用）」「ケイ酸資材の施用」を行う総合的な土づくりが大切になります。

また、肥料の基本成分であるチッソ・リン酸・カリは、基肥一発肥料等で毎年補給されていますが、鉄・苦土・マンガン・ホウ素といった、微量ながらも稲の生育に欠かせない成分や、ケイ酸が不足傾向となっている圃場が多いと推察されます。

ケイ酸を施用する事で稲の温度を下げ、土壌中のケイ酸含量が多いと割れ籾が少なくなります。専用肥料を活用しての土づくりをご検討ください。

成分 (%) 資材名	リン酸	カリウム	カルシウム	苦土	マンガン	ホウ素	ケイ素	鉄	使用量 (kg)
ニュー味力アップ	3.0	3.0		5.0	0.8		21.5	10.0	80
けい酸加里プレミア34		20.0	9.5	4.0		0.1	34.0	3.5	40
地力上げ太郎	1.5	7.5		3.5	0.5		26.0	1.2	60

◎施肥

基肥に一発型肥料を施用していても、肥料成分が早期に溶出してしまう傾向です。葉色等の状況により、追肥も必要となってくるので、注意が必要です。

白未熟粒の一つである背白粒は、適期の追肥で軽減できます。NK化成2号の施用をご検討下さい。

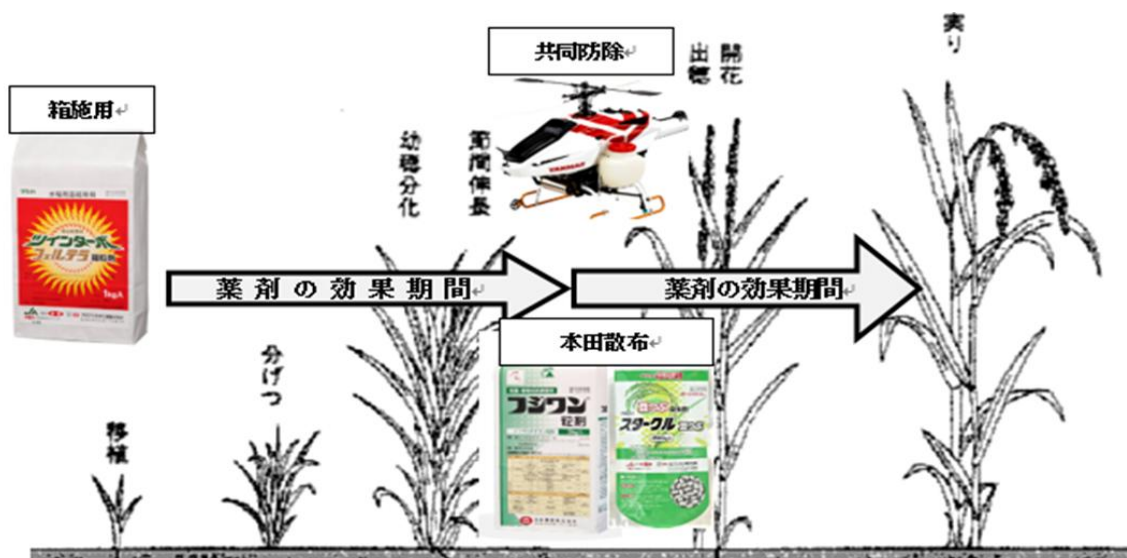
◎病害虫の対策

イモチ病は毎年発生するという認識で、予防に努める必要があります。このために、栽培期間を通じて薬剤の効果を抑えられないよう体系的な防除を行うことで、イモチ病の発生を抑えていきましょう。

また、近年、ごま葉枯病が見受けられますが、カリ・ケイ酸・苦土・マンガン・鉄の施用でごま葉枯れ病にかかりにくくなります。

カメムシやトビイロウンカといった害虫についても、体系防除をしていく必要があります。

特に、カメムシに関しては、出穂前のイネカメムシ防除、出穂後の斑点米カメムシ防除の複数回防除により、被害を最小限に抑えましょう。



◎雑草の対策

雑草対策としての除草剤は、散布後に水で圃場内に拡散しますので、水持ちが悪い圃場では、除草剤は十分な効果を発揮しません。圃場内に満遍なく散布した上で、散布後の水位を維持することを改めて徹底するとともに、畦塗り等での漏水対策や、落水状態で散布できる薬剤の使用をご検討ください。

また、近年は、ヒレタゴボウ・クサネム・イボクサ・クログワイといった厄介な雑草が増えてきていますが、こうした雑草の除草に適した新しい薬剤もありますので、併せてご検討ください。

色彩選別処理による異種穀粒や斑点米の除去について

雑草イネの実（いわゆる赤米・古代米）がまじった米や、カメムシ防除の未実施で斑点米が著しく混入した米は、色彩選別処理だけでは、除去が極めて難しいです。米の収量にも大きく影響しますので、これを減らすための対応をお願い致します。

雑草イネは薬剤散布または手作業にて除草する、斑点米カメムシは出穂期の薬剤散布で駆除する、こうした対策により、赤米や斑点米の混入をある程度抑えておくことで、色彩選別処理の効果が上がります。

◎刈取り時期

猛暑が原因で出穂が早まった事により、収穫適期に刈取りが出来ず、胴割れしてしまう米も散見されました。天候や作業スケジュールの都合上で難しい場合もあるかと思われませんが、出穂以降の積算温度や穂の色味具合を踏まえての、適期刈取りに取り組みましょう。

J Aとうとでは、各種農作物の栽培管理、肥料農薬等についてのご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

J Aとうと 経済部農業課

電話：68-5120

（瑞浪市）J Aとうと 経済センター

電話：68-5128

（土岐市）J Aとうと ふれあいパーク浅野

電話：54-7788

（多治見市）J Aとうと 多治見営農センター

電話：27-2914

